

県南・県東

環境保護に関心持って 見沼区でSDGsお魚教室



池に仕掛けた網を引き上げ、参加者見せる橋本健一さん(右)。「20日、さいたま市見沼区のみめま見開館」

川の生き物や環境保護に関心を持ってもらうこと。「SDGsお魚教室(川の国編)」が20日、さいたま市見沼区の大宮園部浄化センター・みめま見開館で開催された。親子ら16人が川に関する出前教室に参加した後、同館併設の自然庭園で実際に生き物を観察した。

出前教室の講師は市環境教育ネットワーキングパートナーを務める、大日本タイコンサルタントの橋本健一さん(59)。市内の川の特徴や生態

生態系への悪影響として人間による汚染や開発による埋め立て、外来種の存在を挙げた。その後、参加者は自然庭園に移動し、生き物を観察した。橋本さんが前日から池に仕掛けていた網を引き上げると、中に入っていたのは多数のアメリカザリガニ。同センターが外来種を意図的に放つことはなく、水をくんできた際などに混入し繁殖したとみられる。観賞用として購入された

外来種が川や池に放たれるケースもあり、橋本さんは「外来種が歩いてくるわけではなく、悪いのは人間。人間が持ち込まないようにしないとけない」と訴えた。生き物が好きで同センターをよく訪れている中央区の小学4年生、曽根悠生さん(9)は「外来種は元々の生き物を荒らしてしまう。(増加を)止めないといけない」と感じたと話していた。(金森有紀)